

## 地図を活用したASEAN学習

東大阪市立意岐部中学校（現シンガポール日本人学校中学部） 河原紀彦

「中学生の公民」p.158～159の「地域機構の役割と発展」でASEANを取り上げるときに、「中学校社会科地図」p.27～28、と統計資料p.129を使うと、ASEANの課題と役割がクリアとなり、生徒たちは理解、そして考え出す。

まず、ASEAN10か国の位置を地図帳で確認させながら、p.129の統計資料を参考に、下のような表にまとめさせる（単位を忘れずに）。

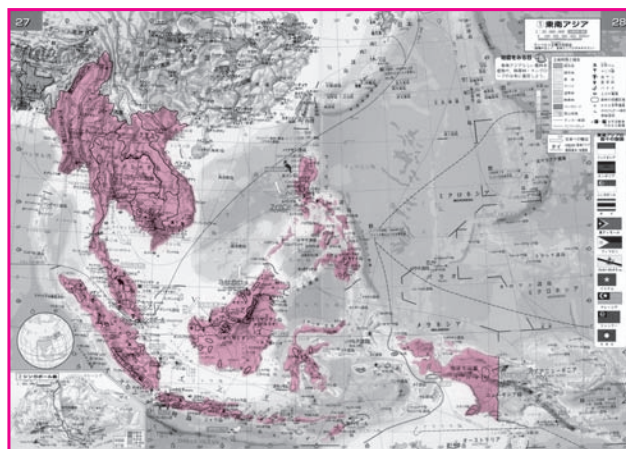
国名	人口 (万人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	1人当たりの 国民総所得	宗教
インドネシア				
シンガポール				

ASEANを理解させ、考えさせるポイントは次の3点である。

- ①**経済**＝加盟国間の経済格差がある中で、ヒトやモノ、お金の自由な行き来が可能なのか。可能になればどのような効果があるのか。
- ②**社会・文化**＝人種や宗教で大きく違う加盟国同士がひとつになれるのだろうか。
- ③**政治・安全保障**＝民族紛争の火種になるようなことがあるのなら、加盟国が協力し合って解決できるのだろうか。

以上の3点を念頭におきながら地図と表を使って、次のような発問例を準備する。

1) 「人口密度が一番高い国は？」生徒「〇〇」(東京の人口密度と比べる)「解決方法として君たちならシンガポールからどこのASEAN諸国へ移住しますか?」「〇〇国へ」「宗教は大丈夫ですか? 1人当たりの国民総所得から考えて移住しますか?」など、表の宗教や1人当たりの国民総所得の値を関連づけさせながら考えさせ意見を出させる。



「中学校社会科地図 初訂版」p.27～28

この発問を通じて、生徒たちはASEAN理解のポイント①と②を理解し始め、EU並みの統合は難しいことに気づき出す。しかしASEANの地域統合理解の重要性は、統合の困難性ではなく、統合の意味と役割を理解させることが大切である。そのためにポイント③を念頭に、次のような発問を行って考えさせる。

- 2) 「ASEAN諸国では周辺国の平和を脅かすことがあったのだろうか」(バリ島のテロやミャンマーの軍事政権、カンボジアなど)
- 3) 「平和を脅かす脅威に対してASEAN諸国は協力して何ができますか」教科書p.158のカンボジアの例をあげて考えさせる。
- 4) 最後に「ASEAN10か国が統合すれば、日本企業は、自由貿易港シンガポールにますます投資しますか」日本からシンガポールまでの位置関係を地図から読み取り、平和そして関税のないボーダーレスのASEAN10か国の魅力(人口、各国の位置)を、「投資する」「投資しない」の両面から考えさせる。